

# 民生文教 常任委員会

## 図書館の現状と課題について調査 高齢者の受け皿としての施設に期待



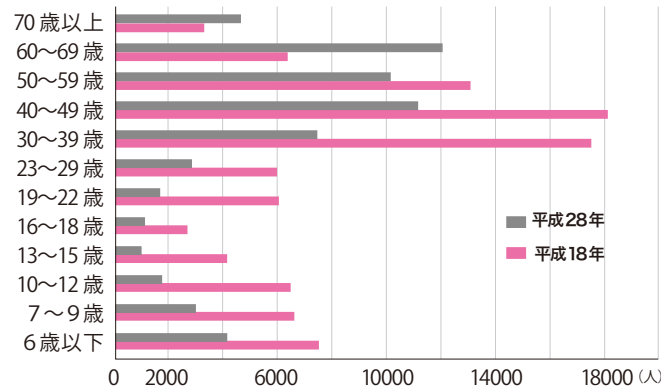
委員長 柳沢浩一 委員 小林一幸  
副委員長 新井賢次 備前島久仁子  
浅見武志  
石川眞男

所管事務調査日：平成29年12月8日



受付カウンター

平成18年度と平成28年度の年齢別利用者比較



「夏の本の福袋」を選ぶ親子

### ● 図書館の現状と課題

最大の課題は、図書館資料の貸出数、来館者数の減少である。町立図書館は平成5年開館以来、利用者数は、平成16年度をピークに減少している。原因としては、スマートフォンやタブレット端末等の普及、活字離れが大きな要因と考えられる。なお、町の住民1人当たりの貸し出し数は、県内の公立図書館がある23市町村のうち4位となっている。

### ● 利用者増に向けた対策

平成29年度は利用者増を図るため、新規事業として小中学生限定の「夏の本の福袋」、「図書館バッグ」を100袋有料で販売、「クワガタの飼育教室」など5事業を実施または予定している。その他、平成28年度から高齢者向け読み聞かせの講習会、小学生に図書カード作成の推進、ボランティアの協力による読み聞かせの実施回数増加、県立図書館で借りた本を町の図書館で返却できるサービスなどを実施している。

### まとめ

図書館の利用者については、平成16年度をピークに年々減少しており、特に若い世代の減少が顕著であった。図書館は重要な施設であるため、今後もさらなる努力と工夫により利用者増に取り組みしたい。また、高齢者が大幅に増加しているため、今後は高齢者が安心して利用できることにも受け皿としての役割が果たせる施設となるよう期待する。

# 総務経済 常任委員会

## 玉村町景観計画策定の進捗状況を調査 景観を守り生かして活気あるまちに



委員長 渡辺俊彦 委員 原利幸  
副委員長 月田均 三友美恵子  
宇津木治宣  
石内國雄

所管事務調査日：平成29年12月7日



田園居住ゾーンの景観



市街地ゾーンの景観



玉村宿重点景観形成ゾーンの景観

### ● 景観計画の概要

景観計画は良好な景観の保全・形成を図るために定める計画である。景観計画の策定は、町のあるべき景観の姿を明らかにする役割を持ち、また、地域の特徴に応じて必要なルールを定めることも可能となる。

### ● 玉村町の景観計画の進捗状況

町は平成28年度から景観計画策定業務を開始し、景観調査や策定委員会等を行っている。町の計画では、町内を「田園居住ゾーン」、「市街地ゾーン」に分け、景観づくりの重要性から旧玉村宿エリアを「重点景観形成ゾーン」に設定する。それぞれのゾーンにおいては、高さや色彩などを基準により行為制限していく。今後においては、今年度中に景観計画を策定し、来年度中に景観条例を制定する予定である。

### まとめ

景観計画策定に向けてはおおむね順調に進んでいた。しかし、現在の計画案ではゾーンごとに行う制限していくようだが、制限については「効果が薄いのではないか」や、「一方で「厳しすぎる」など多様な意見があり、基準をどの程度にするかの検討が重要と考える。よい景観をつくる事ができれば、町の魅力が高まり、人が集い、観光客や移住者も増えるなど、さまざまな効果が期待できる。町は移住定住を促進しており、歴史や自然を守りながら、人が集まり活気ある町となるように、しっかりとした景観計画の策定に取り組まれない。